

区政をきく

(一般質問)

平成29年第2回定例会では、区政全般について、9名の議員が一般質問を行いました。以下、概要をお知らせします。



より未然防止に努めている。

震災に強いまちづくりについて

①木造住宅が密集している災害時に危険性が高い地域が不燃化特区に指定されているが、不燃化の進捗状況とその効果は。②老朽木造住宅が集中している地域では、一棟の建てかえのみではなく周囲の住宅と共同して、火災に強い共同住宅を整備するといった手法が大変有効と考えるが所見は。③老朽木造住宅の除却を推進し、火災に強い建物へ転換するためには、支援制度のさらなる拡充が必要では。④震災時に道路に面した建物が倒壊すると、道路を閉鎖し避難所への経路が絶たれる可能性がある。燃えないためのまちづくりと同時に倒れないまちづくりも重要と考えるが、総合的な防災まちづくりについて所見を。⑤地域で活動している建設関連の事業所に木密助成相談のようなスポットを開設し、防災まちづくりに対する助成金制度の周知に努めては。⑥これまで狭小な道路への無電柱化は非常に困難であったが、国と都が技術開発の取り組みを始めた。区としても無電柱化の積極的推進を検討しては。

シルバークロムセンターの整備等について

①シルバークロムセンターは全体的に老朽化が進んでいるが、今後のあり方への区の考えは。②既存の建物に後付けで段差解消などを行うと、かえってバリアになってしまいう可能性があると感じた。既に改修工事を行った7館を含めて、区民ニーズを反映した計画的な建てかえが必要では。③シルバークロムセンターの利用者が減って推移する中、ゆうゆうプラザは新規登録者数が増えており、地域の高齢者の介護予防や世代間の交流等が図られ区民福祉に資する施設となっている。今後どのように設置していくのか所見を。

区長 ①高齢者の身近な居場所、交流の場は重要となっており、地域の介護予防の拠点として整備していく。②高齢者が安心して利用できるようバリアフリーに配慮した整備を進めていく。③状況等を把握しながら、建てかえの際にゆうゆうプラザへの転換を進めていく。



石田 秀男 議員 (自・未)

シティプロモーションについて

①今年度は全国シティプロモーションサミットが品川区で開催されることになったが、コンセプト等どのような内容で行うのか。②サミット終了後、今後の方向性やコンセプトを再度検討し、効果の上がる事業にしていくべきでは。③区長が就任して10年目、11年目のプレス発表等を見ると、新規事業やモデル事業が少なくなってきた。職員の負担が大きくなり過ぎないようにし、職員が新規事業等を提案できる雰囲気作りを。④新規事業が区民に理解されることがシビックプライドにつながるかと考えるが見解は。

観光について

①JR東日本宿舎跡地へ総合的な娯楽施設等ハード整備を計画し、区全体の価値を更に高めては。②品川歴史館は観光資源としても活用すべきと考えるが、現在収納庫は満杯であり、資料を整理できる学芸員も不足している。非常勤配置を改め、正規職員とすべきでは。③外部の人的資源を導入し目録の作成やデジタル化を。④寄贈品の価格評価ができる組織作りを。⑤レストラン併設や歴史館本体の改築計画策定をすべきでは。⑥水辺のボードウォークは、児童遊園の中に位置するため飲食店の設置等ができない。観光資源として水辺の利活用を進めるため(仮称)水辺の設置管理条例の策定を。⑦ボードウォークにも東京のしゃれた街並みづくり推進条例の適用を。⑧区が中心となり東京都屋外広告物条例の改正の提案を。⑨店舗の方も含めた現状調査を行い、客引き行為等防止に関する条例の改善を。

児童相談所について

①特別区が児童相談所を設置する意義は。②児童相談所設置計画をモデル的に実施する世田谷区など3区の状況は。③児童相談所設置を希望している22区と都との協議の状況は。④都の児童相談所への区職員派遣計画は。⑤モデル実施した際、都は人材供与してくれるのか。⑥大きな事務を区が担うのであれば、都から財源等の話があつて当然であり、しっかりと議論を行うべきと考えるが見解は。

子ども未来部長 ①住民に身近な基礎自治体が機能を担うことだと考える。②都との確認作業を始め、その結果を還元している。③協議の場の設置を要請している。④計画的受入を要請している。⑤不透明な状況である。⑥都から一定の財源等が引き継がれるというのを念頭に着実に議論していく。

孤独死について



いながわ貴之 議員 (民・無)

①孤独死にかかわる行政や団体等では、それぞれで孤独死の定義づけを行っているが、定義が曖昧なため国等において統計を取ることができない。

区では定義づけをどのように行っているのか。②福祉部で把握している孤独死についてのデータは、課内で共有されているか。③区が把握している孤独死数は。④孤独死の多くが60歳代から70歳代だが、この年代は発見されやすい環境にある。それ以外の年代へのフォローのため、区が行っている孤独死対策とは何か。福祉部長 ①自宅で誰にもみとられない環境で亡くなった場合を孤立死としている。②生活保護を担当するケースワーカー等が得た情報を共有できる体制になっている。③区が把握した平成27年度の件数は12件だが、直接警察等への通報により発見されるケースも多く、全体数は把握していない。④民生委員の訪問や緊急通報システムの設置等に

都市環境部長 ①旗の台・中延地区で不燃領域率が3年間で6ポイント改善するなど、燃えないまちに向けて確実に進めている。②区では住原町駅前地区に続き中延二丁目旧同潤会地区でも、共同化の1つの手法である防災街区整備事業を積極的に推進している。

③不燃構造化支援等を昨年度創設した。今年度は、より多くの建物に支援できるよう要件を拡大した。④建築物を耐震構造とし倒壊させないことにより、被害の減少が期待できる。⑤関係団体へ説明会を行うなど、地域の皆様からの相談の際には、制度の活用を促してきた。引き続き効果的な周知方法を検討していく。⑥国や都の動きに注視し、防災をはじめとした幅広い視点から取り組んでいく。

区長 ①高年齢者の身近な居場所、交流の場は重要となっており、地域の介護予防の拠点として整備していく。②高齢者が安心して利用できるようバリアフリーに配慮した整備を進めていく。③状況等を把握しながら、建てかえの際にゆうゆうプラザへの転換を進めていく。

①JR東日本宿舎跡地へ総合的な娯楽施設等ハード整備を計画し、区全体の価値を更に高めては。②品川歴史館は観光資源としても活用すべきと考えるが、現在収納庫は満杯であり、資料を整理できる学芸員も不足している。非常勤配置を改め、正規職員とすべきでは。③外部の人的資源を導入し目録の作成やデジタル化を。④寄贈品の価格評価ができる組織作りを。⑤レストラン併設や歴史館本体の改築計画策定をすべきでは。⑥水辺のボードウォークは、児童遊園の中に位置するため飲食店の設置等ができない。観光資源として水辺の利活用を進めるため(仮称)水辺の設置管理条例の策定を。⑦ボードウォークにも東京のしゃれた街並みづくり推進条例の適用を。⑧区が中心となり東京都屋外広告物条例の改正の提案を。⑨店舗の方も含めた現状調査を行い、客引き行為等防止に関する条例の改善を。

①特別区が児童相談所を設置する意義は。②児童相談所設置計画をモデル的に実施する世田谷区など3区の状況は。③児童相談所設置を希望している22区と都との協議の状況は。④都の児童相談所への区職員派遣計画は。⑤モデル実施した際、都は人材供与してくれるのか。⑥大きな事務を区が担うのであれば、都から財源等の話があつて当然であり、しっかりと議論を行うべきと考えるが見解は。